



ぶらんこ

令和4年9月5日（月）
おおむたこども園 NO11
山元 紀代美

わんぱくフェスティバルについて

日時・・・10月8日（土） 9:00～12:00（片付けまで） 集合 8:45

雨天の場合は延期（時期については理事会で話し合います。）

場所・・・おおむたこども園 園庭

対象・・・3, 4, 5 歳児（ぺんぎんクラス、ぱんだクラス） 2 歳児（自由参加）

0, 1 歳児はお休みになります。

参加者・・・園児、職員、保護者（1 件に 2 名まで）小学生の見学はご遠慮ください。

園児の兄弟は連れてきて構いませんが、お子さんの管理をお願いします。

服装・・・自由、帽子、競技は主に裸足で行います。

準備・・・水筒、着替え 1 組、タオルなど

＊一応、園で計画をしました。13 日に理事会がありますので詳細を話し合いたいと思います。コロナ感染症がまだまだ心配なところですが、子ども達はわんぱくにに向けて張り切っています。

*体験したことをもとに

6 月にイルカランドに行き、海の生き物に関心を示し、室内ではたくさんの海の動物たちを折り紙やフィギュアを使って水族館を作り上げていました。普通だったらここまでの活動で終わるのが当たり前でしたが、今年はチケットを作って、お客さんと水族館の職員に分かれて、お金のやり取りをしたり、水族館の職員になりきって動物の説明をしたり・・・遊びが深まり、見ていても自分たちが体験したことを細かく再現していた子ども達で、学びの深さを感じることができました。

7 月は七夕涼み会。当日もお祭りの雰囲気を出すために、提灯を飾ったり甚平や浴衣を着たり、出店でよく食べる焼きそばやから揚げの昼食、デザートはかき氷。子ども達はテンションも高く、お祭りの雰囲気を楽しんでいました。その後、自分たちで食べ物を作ったり、お店のレイアウトを考えたり、その後 1～2 週間はお祭りごっこで盛り上がっていました。

ここ 1～2 年、コロナ、コロナで子ども達の楽しい経験や体験が奪われています。しかし、そんな中でもいろんなことを体験させる大切さを今年は特に感じています。いや、こんな時だからこそ、思い切って体験させる必要もあるのかな？いよいよ後半戦！どうなるかぁ・・・日々思う園長です。

*愛着関係を築く

食事時、いちご 1 組で R ちゃんが大泣き。何があったんだろう？と行ってみると、お友達と少しトラブルがあったのだとか・・・2 名の担当が他の子ども達に食事をさせていたので、私はしばらく R ちゃんと遊ぶことにしました。

ごはんが終わった M ちゃんと S ちゃんはベッドへ行き、眠りに入る準備をしています。食事が終わった子ども達も次々にベッドに入ってきますが、中には、じっとできない子もいます。最後の R ちゃんがご飯に入ったので、次は他の子ども達の午睡担当の手伝いをしますが、なかなか寝てくれません。子守唄を歌ったり、体をさすったりするのですが、起き上がり遊び出す子どももいます。「仕方がない・・・1 人ずつやってみよう」と、遊び出した子どもを見ながら、寝そうな子たちをベッドに誘っていきます。

ようやく全員の食事が終わると、担当保育士が午睡の場所にきました。すると今まで遊んでいた子たちがすんなりベッドで横になります。「えっ！」少しびっくり。担当は「さぁ、寝ようか？」と言っただけです。私と何が違うんだろう？じっと観察するとやはり、子どもと担当との愛着関係がしっかりできていることに今更ながら感心させられました。担当の手をすりすり触りながらあっという間に安心したように夢の世界に落ちていく M ちゃん。「私（園長）、40 年近くこの世界にいるけど 担当にはかなわんわー！」と思わず言葉が出てしまいました。

担当の姿を見ながら、「愛着関係」ということを改めて考えさせられました。こんなに子どもが安心して自分をゆだねられる母親のような存在の保育士が園にいて、子ども達はどんなに精神的に安定することか・・・。まだまだ 20 代前半の職員です。これから保育士としていろいろな経験をしながら大きく成長していく姿を想像して、うれしくなるひと時でした。